

推薦入学試験問題【小論文】ロシア学科

〔問題〕 以下の文章を読んで設問に答えなさい。

最近出版された『バリモントと日本』には、詩人兼旅行家バリモントが行なった一九一六年五月の日本旅行のことが詳細に述べられている。バリモントの二週間の旅は結果として、家族への手紙やモスクワからやってきた新聞の特派員との会見記事や「詩の国」をテーマにした講義、さらには日本についてのさまざまな詩を生み出し、またその叙情的な趣きが肌に合った日本の詩人たちの作品の翻訳をもたらしした。

一九一六年に発表された初期の論文の中で彼は次のように書いている。「わたしは想像の中で日本女性と恋におちたが、誰だつてそうならざるをえないのだ。日本の女性はみんな猫に負けないくらいやさしく、鳥のように優雅なのだから」。日本女性は小動物ばかりでなく、おしまいには、高尚な芸術作品とも比べられる。田んぼで働く日本人の姿はバリモントにとつては感動のあまり涙を催すほどに美しい風物であつた。「労働に對しても自然に對しても、彼らは純粹に宗教的なかかわり方をしている①」。ひと言でいえば、彼は相手の不自由さの中にそれを観察し解釈し美化する自分だけの自由を味わつていたのである。バリモントの二週間の旅は結果として彼の仕事に「日本的なるもの」の統一というテーマを加えることになつた。——芸者、侍、茶屋、仏教寺院などが彼の詩の主題になつたし、何十年ものあいだロシア人に読まれつづけることになる日本の詩歌の翻訳を世に送つたのである。一九一六年の評論の中で彼はこう書いている。「わたしは日本のことを正確に記憶しているわけではない。わたしは日本人流に感じているらしい」。すぐれて個人的なものではあつたが、このように日本を日出ずる国として美しく見るバリモントのような肯定的評価は、革命以後のロシアの作品にも受け継がれていくことになる。

次に一九一七年以後に目を向けよう。一般的に言つて、ソビエト文学には公然たる人種優劣主義は見当らない。したがつて、日露戦争中と戦争直後にロシア人読者向けに書かれた日本人に関する記述は、第二次世界大戦前や大戦後に書かれたものときわ立つた対照をなしている。変わらないのは、日本人は奇妙で神秘的だという感じ方（それは人種優劣主義とがめられることはなかつた）、さらに日本人には根本においてロシア人であるいはソビエト人と相通ずるところがあつて②、そこから自分たちの社会も学ぶことができるのだという気持である。（中略）

革命ののち一九二〇年代、三〇年代、四〇年代、さらに七〇年代、八〇年代の作家たちはそれぞれ旅行記を書いている。彼らが日本を描く際には、例外なくそれぞれの時期のロシア人の先入見とは無関係でいられない。その先入見の中でも最たるものは本国における検閲で、それは旅行記を執筆中の時期の相対的な表現の自由と対照をなしている。自作の書き直しを強いられ、最後には沈黙に追いやられてしまったモダニスト作家ボリス・ピリニャークは、日本に二度——一九二六年と一九三二年に——旅をして、二冊

の本を著わした。ヴェラ・レックはそのピリニャーク論の中で、一九二七年に出版された最初のテキスト『日本の太陽の根』と二番目のテキスト『石と根』の異同を記述している。最初の本は西欧人男性が日本で出会う異国情緒あふれるエロティックな歓楽について語ったもので、この中で日本は本国で危険を冒さずに体験することが難しい冒険の場として利用されていた。第二の作品は二度目の旅のあとで書かれた。最初の作品が社会的良心を欠くと批判されたので、最初の作品から三分の一を引用し、あとの三分の二は「注釈」である。しかし引用自体も改変されている。たとえば、蝶のように幸せな生きものとピリニャークが述べていた娼婦は姿を消し、売られていく女たちが写実的に描かれるようになる。注目に値するのは、圧力がかかっていた段階でのピリニャークの日本人男性像には身体面での賞賛の言葉がちりばめられていたということだ。『日本の太陽の根』よりも前に『小説「小説作法」』（一九二六）と題されるルポルタージュ風の構成をもった伝記の断片が書かれていたが、そこでは「タガキさん」という作家について次のように述べられている。「彼は浅黒くて背が低く、痩せ型で、——ヨーロッパ人の目からすると日本人はそう見えるのだが——美男子であり、たいへん「シブイ」男（シブイは日本語でシックを意味する）」として描かれている。日本人の身体を借りてロシア的なものを隠すのは、ヨーロッパ男性の得意とするところであつた③。

（バーバラ・ヘルト著「ロシア文学に描かれた「日本人」——変容するアイデンティティ」『ロシア文化と日本 明治・大正期の文化交流 中村喜和・トマス・ライマー編』彩流社 一九九五年所収）

設問一、傍線①で言われる日本人の特徴とは、より具体的に言えば、どういふことなのか。自分の言葉で説明しなさい（二百字以内）。

設問二、傍線②の「日本人は奇妙で神秘的だという感じ方」は、その直後の「日本人には根本においてロシア人あるいはソビエト人と相通ずるところがある」と響き合っているかのようだが、これらの指摘は、日本人とロシア人のいかなる精神的特徴について言えると思うか、自分の考えるところを書きなさい（二百～三百字）。

設問三、傍線③は何を意味していると思うか、またここには著者であるロシア人の日本人に対するいかなる思いが込められていると思われるか。あなたの考えを簡単に説明しなさい（二百字以内）。

設問四、日本人であるあなたの目から見て、ロシア文学の主人公（登場人物）の中で典型的なロシア的な性格と思われるのは誰のどのような性格であると思うか。またその中であなたが共感できる人物はいるか、その理由も合わせて説明しなさい（二百～三百字）。